令和元年度北上市議会新清会活動報告書

期　日	内　　容	場　所
10月29日(火)	特定非営利活動法人 土佐山アカデミー テーマ：中山間地域における“人づくりから始まる持続的な地域のモデル”について （各種研修やプログラムの実施状況について） 説明者：事務局長 吉富慎作 様 --- 高橋 光博 齊藤 律雄 藤本 金樹 菊池　勝 昆野 将之	高知県高知市土佐山桑尾1856-1
10月30日(水) ～31日（木）	全国市議会議長会研究フォーラム （10月30日） ・基調講演「現代政治のマトリクス―リベラル保守という可能性」 中島　岳志（東京工業大学リベラルアーツ研究教育員教授） ・パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター 坪井　ゆづる（朝日新聞論説委員） パネリスト 髙部　正男（市町村職員中央研修所学長） 横田　響子（株式会社コラボラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授） 古川　康造（高松丸亀町商店街振興組合理事長） 田鍋　剛（高知市議会議長） （10月31日） ・課題討議「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター 坪井　ゆづる（朝日新聞論説委員） 事例報告者 滝沢　一成（上越市議会議員） 久坂　くにえ（鎌倉市議会議長） 小林　雄二（周南市議会議長） --- 高橋 光博（２日間参加） 齊藤 律雄（　〃　） 藤本 金樹（　〃　） 菊池　勝（　〃　） 昆野 将之（　〃　）	高知県 高知市 高知ぢばさんセンター

期　日	内　　容	場　所
2月11日 (火)	10：00～12：30 地方議員のための地域経済分析システム リーサス活用【基礎編】 14：00～16：30 地方議員のための地域経済分析システム リーサス活用【応用編】 ---------- 高橋 光博 昆野 将之 齊藤 律雄 藤本 金樹	大阪府 大阪市 新大阪丸ビル 別館

研　修　報　告　書

北上市議会議長　様

北上市議会　新清会
代　表　　高　橋　光　博

次の　研修　について結果を報告します。

期間（期日）	令和元年10月29日（火）
視察先 視察内容 または 研修事項	特定非営利活動法人土佐山アカデミー テーマ：中山間地域における“人づくりから始まる持続的な地域のモデル”について 説明者：事務局長　吉富　慎作
参加者	高橋 光博 齊藤 律雄 藤本 金樹 菊池　勝 昆野 将之
［内容及び所感］	土佐山は、2005 年に高知市と合併する前は、土佐郡土佐山村という単独の自治体だった。94%が森林という典型的な山村で、現在の地区人口は約 1,000 人。合併前から県下有数の過疎地域として知られていた。 我々新清会は、このような中山間地域の中で住民とどのように向き合っているのか、中山間交付金等がどのように活用されているのか、各種研修等の実施状況などが視察の目的であった。しかし、実態は当初の想像を大きく超えたものであった。 土佐山地域（旧土佐山村）は、明治の自由民権運動の時代から地域全体での社会教育が根付いており、その事は今もなお「社学一体」という土佐山発祥の「人づくり」に繋がっているという。その表れの一つであろうか。９年制小中一貫の高知市立義務教育学校土佐山学舎があり、20 人学級で一部の児童は約 30 分かけて高知市内からもスクールバスで通学。４年生ぐらいからは日常英会話も可能で８・９年生（中学校２・３ 年生）には英検準２級も珍しくないとのこと。 ここに土佐山アカデミーの方針と活動の一端を紹介する。 ◆『土佐山アカデミーは、次の 100 年のために地域の資源を活かし、新たな出会いやアイデアを育む学びの場』 学びの場から生まれるもの ・地域の資源（自然・人・文化の活用） ・新しい仕事/生業のアイデア ・交流人口の拡大 ・広域な地域間ネットワーク ・新たな暮らしや社会のしくみの提案 （日本の中山間地域を活かす事は日本を活かす事につながる！）

◆『地域内外から多様な人々が集い、これからの暮らしや社会を創るためのアイデアを育む学びの場を目指し、三つの事業を運営』

1．学びの場づくり事業（プログラム開発・運営）

土佐山地域全体を学びの場として、地域の資源である自然や知恵、文化から学び、これからの暮らしや社会づくりの担い手となる人材を育む教育事業。滞在型のプログラムから日帰りのワークショップまで様々なプログラムを実施。

2．集いの場づくり事業（移住・起業支援）

地方と都市という垣根を取り払い、人が巡る仕組みをつくる事で地域間の人的交流を促進。地域内外を問わず多様な人が集い、互いの知恵や経験を共有しやすい環境づくりを目指し、空き家を改修したシェアハウスの運営や、それを拠点とした過疎地特化型起業家支援プログラム等を運営。

3．文化・社会づくり事業（地域モデルの創出）

農林業を中心とした一次産業の活性化や後継者の育成、地域情報の発信や地域づくりのサポート等、持続的な地域モデルの創出を目指し、多様な人材を巻き込みながら、地域の活性化に関わる様々な事に取り組んでいる。

６年間の延べ参加人数	移住者数
１３，５００人	２４人

今回の視察で特に印象に残った言葉

・地域の課題（人・モノ・自然・文化・風土・歴史）が地域の資源
・遊びと学びの境界線を無くす（学び方の学び方を学ぶ）
・楽しそうにしていないと移住してくれない
・魅力づくりが観光につながる

このほかに、今回の説明資料をデータで頂くことができた。

地域づくり・地域おこし等に感心のある人、起業を考えている人、自治体からの職員研修、富士通・ソニー・日産・etc といった大手企業、他、多種多様な目的を持って研修に来ているとのことであった。

土佐山アカデミーを視察して思ったことは、この組織は１地域おこし団体ではなく、高度な提案能力を備えたシンクタンク（政策研究所）ではないだろうか。今や、都会が地方に知恵を仰ぐ時代になった。学びに来る世代は 30 歳前後が多いとのことであったが、世代に関係なく、そして過疎地を卑下することなく、むしろ課題が多い分だけ資源が豊富という精神で誇りをもってチャレンジしたいものである。

【高橋光博】

全国平均よりも高い高齢化率、旧土佐山村人口約 970 人、14 集落のうち 94%が森林鏡川源流域という中に、様々な特徴を持つ人材が集い、一般的には課題とみなされるものを資源ととらえて、前向きに取り組んでいる様子に、非常に感心し

た。

この土佐山の取り組みのベースとなっているのが、古くは明治の自由民権運動から発展してきた「社学一体」という考え方にあり、社会教育が地域づくり、人づくりにつながって行くことを改めて実感した。

外から来た人（風の人）の視点と地元の人（土の人）をつなぐ人（水の人）が合わさることで、外から来た人は地域にたくさんの魅力があることを感じ、地元の人の行動につながることで、地域の中の幅広い年齢層の交流が生まれ、次世代への知識の蓄積が行われ、外から来た人も様々な気付きを得られる。その楽しそうな活動がまた新たな人を呼び込んで行き、その経験とそこに集まった人材により、大企業や官公署等を対象とした研修事業も行っているとのことであった。

その結果、８年間の実績交流人口約 18,500 名、移住者 50 名（のべ）と非常に多くの成果が表れていることが興味深く、外部の視点・人材が入ることの重要性を感じることができる内容であった。

【齊藤律雄】

現状として、当北上中山間地域よりも農地としては厳しい状況に関わらず、各地域より若い方々が集まり自発的にイベント等を行い、自らが楽しんでいる現状で、それが地域住民との交流のもとに行われている事が直接感じることができ、「百聞は一見にしかず」と昔から言われているがまさにその通りであった。以下感じた取組について。

1，地域外からの方々が自由な発想で提案し、イベント等実行しているが、地域住民も巻き込んで開催されている。土佐山アカデミーの理事は地域の有力者で構成されており地域外の若者は入っていない。しかし、お互いの関係がしっかりしているのか、お互いを認め合い良い方向に向かっているよう感じた。

2，昔から居住していると、その地の魅力が分からないとは良く言われるが、ここ土佐の地でも地域においては厄介なものと捉えられたていた（農地が狭い、農地が急勾配、高齢化により耕作放棄地が増加、若者が少ない）事が、見方を変えれば宝の山に変えられると細かく説明され、その宝を発信し、多くの人々を巻き込んだ地域活性化の手法は大変参考に成りました。

3，地域活性化についてと、交流人口の増加に向けた取り組みが、土佐だけに留まらず日本の一流と言われている企業とも、人材育成及び人的交流を通し広くネットワークを築いている事には内容を十分自分のものとするには時間が少なかったと、研修に訪れて簡易な宿泊場所で泊まり何となく住みついた方々がいるとのお話も有り、その様な体験をして、肌で感じたいと思う土佐山アカデミーでした。

【藤本金樹】

私は、「しっかり土佐山アカデミーで学びたい」。これが正直な感想です。当日は自らリフォームしている空き家も見学させていただきました。吉富氏から、

「この地域は財産である」。「この財産に新たな価値を見出す」。「それらを最大限に活かすため人々が集い、自然と調和した学びの場を創出する」。「学びの場づくりから始まる持続可能な地域モデルにつなげる」。一貫したわかりやすい説明をいただきました。また、吉富氏の土佐山地域（旧土佐山村）は、自由民権運動の時代から、長年受け継がれてきた豊かな自然環境や「社学一体」をはじめとする教育理念が受け継がれているともお聞きしました。

私は、「土佐山ＯＴＡＫＡＲ地図」から、誰もが目に見える構想を掲げ、その取り組みを点から面へつなげる工夫や発展的に維持するためのクラウド・ファンディング（資金調達）までの一連の仕組みは、大変参考となりました。青年会議所時代からこれまで、地域のお宝（資源）を発掘することのみを求めて来ましたが、循環にまでは至っておりませんでした。この視察を通して、土佐山とは文化的背景は違いますが、ひとが集まり、学びの場を創出する視点から、ここにしかない学びやなりわいを生み出す地域の循環モデルを実際に創ろうと考えております。

【菊池　勝】

土佐山は高知市の北部地区の中山間地域で、当団体は人口減少、高齢化の地域で、様々な事業で地域おこしをしているＮＰＯ法人であった。

活動６年間で参加人数 135,000 人、移住者 24 人と非常に大きな結果を出していて、事業は多岐にわたるが、印象に残ったのは、「世界最速の流しそうめん」、「天空のブランコ」であった。

土佐山地域は中山間地域で、急傾斜地だがハンデと思われる事を逆に利用して参加者を集めていて、ＰＲがとてもうまいと感じた。今ではスノーピークスから商品の提供を受けて事業に利用したり、ＪＡＬの研修も行っているようだ。

土佐山アカデミーは、いま私が自分の地域でやりたい事を全て実現しているようにみえた。

彼らは「課題＝資源」と考えていて、使命感ではなく、いかに普通のことを面白くするか、こんなことをしたら面白いだろうなという子供心を常に持って活動しているのが素晴らしく思えた。

【昆野将之】

研　修　報　告　書

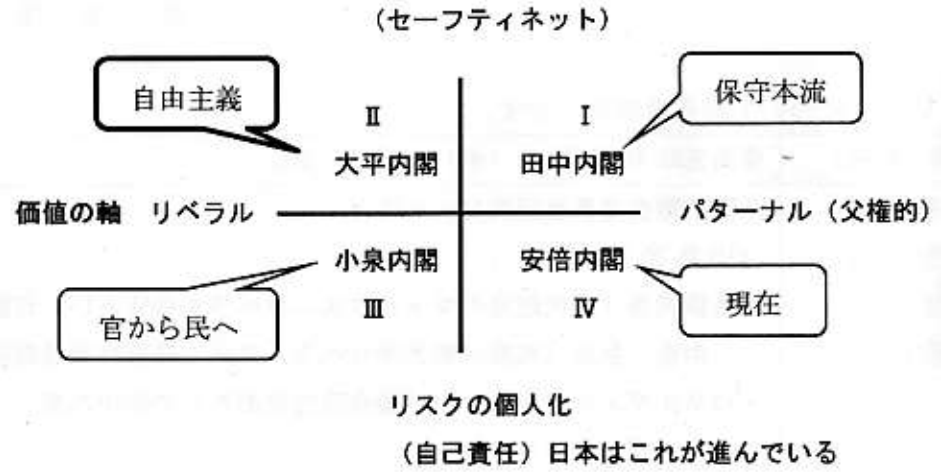
北上市議会議長　様

北上市議会　新清会
代　表　　高　橋　光　博

次の　研修　について結果を報告します。

期間（期日）	令和元年10月30日（水）～31日（木）
視察先 視察内容 または 研修事項	全国市議会議長会研究フォーラム （10月30日） ・基調講演「現代政治のマトリクス―リベラル保守という可能性」 中島　岳志（東京工業大学リベラルアーツ研究教育員教授） ・パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター 坪井　ゆづる（朝日新聞論説委員） パネリスト 高部　正男（市町村職員中央研修所学長） 横田　響子（株式会社コラボラボ代表取締役／ お茶の水女子大学客員准教授） 古川　康造（高松丸亀町商店街振興組合理事長） 田鍋　剛（高知市議会議長） （10月31日） ・課題討議「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター 坪井　ゆづる（朝日新聞論説委員） 事例報告者 滝沢　一成（上越市議会議員） 久坂　くにえ（鎌倉市議会議長） 小林　雄二（周南市議会議長）
参加者	高橋 光博　（２日間参加） 菊池　勝　（　〃　） 昆野 将之　（　〃　） 齊藤 律雄　（　〃　） 藤本 金樹　（　〃　）
［内容及び所感］	名簿上では全国各地から2,223人の参加者で、岩手県からは北上市議会のほか、宮古市議会、大船渡市議会、花巻市議会、一関市議会、二戸市議会で計25名の参加に留まっていた。 【第１部】 「政治のマトリクス」として、下記のような説明であった。

講師の政治に対する基本的な仕組みは、①お金をめぐる仕事②価値をめぐる仕事の二つから成り立っているとのこと。



講師による用語の解説

保守・リベラル

保守は国の秩序や愛国心、自己責任を重視するのに対し、リベラルは個人の権利や多様な価値観を尊重し、共助、共生などの助け合いを大事にするという傾向がある。

パターナル（パターナリズム）

強い立場にある者が弱い立場にある者のためだとして、本人の意思を問わずに介入・干渉・支援すること。親が子供のために良かれと思ってすること。家族主義・温情主義・父権主義などと訳される。

ラディカルデモクラシー

大衆民主主義の問題点を民主主義の徹底化、成熟化を通じて克服すべきと主張する思想。

ラディカルデモクラシーを立憲民主党とれいわ新選組に当てはめ、熟議デモクラシーは枝野流、闘技デモクラシーは山本太郎流に例えていた。

《講演から学んだこと》

人間（および人間社会）に「完成」という言葉はない（完成不可能性）。いくらＩＱの高い人たちが設計したものでも完璧はない。なぜなら、私たちの現在は、良識・伝統・慣習といった膨大な過去の蓄積・知的財産の上に成り立っていることを忘れてはならない。「改革」とは過去から相続した歴史的財産を微調整することだということを教えられた。

【第２部および第４部】

慶応３年（1867年）、坂本龍馬は藩船の夕顔丸で提示した八つの項目。1. 大政奉還 2. 上下両院の設置による議会政治 3. 有能な人材の政治への登用 4. 不平等条約の改定 5. 憲法制定 6. 海軍力の増強 7. 御親兵の設置 8. 金銀の交換レートの変更。これを総称して『船中八策』と言うらしい。

今回は、会場を夕顔丸に当てはめ、パネルディスカッションと課題討議を通して議会活性化に繋がることを狙いに『船中八策』という言葉を引用したと理解した。

全国都道府県と市区町村計 1,788 議会からのアンケートの結果、地方議会の三つの悩みとして、「なり手不足」、「女性議員ゼロ」、「3 ない議会」を挙げていた。

なり手不足の要因として複数回答の中で、仕事との両立が難しい・議員報酬が少ない・有権者の関心が低いが半数以上を占めていた。仕事との両立に関しては、当市でも具体的な検討には入っていない。全国 1,788 地方議会のうち、女性議員ゼロ議会が２割程度。全体の 45%程度が一人以下という。パネリストの一人が「なぜ、女性議員が少ないことに騒ぐのか。私はそれほど思わない。」という発言に会場が若干ざわついた。「3 ない議会」とは、「議案への議員個人の賛否を公開しない」、「首長の提出した議案を修正・否決しない」、「議員提案の政策条例を制定していない」というもの。当市は賛否を公開している。首長提案に対する対応は、修正・否決の必要性よりも、常に自分の考えと判断の理由を具体的に説明できることが肝要と思う。また、議員提案の政策条例は当市でも殆ど実績がなく、今回の事例報告にもその実績はなかった。

最後に、まとめとして課題提供された事項は、・行政監視機能の向上　・人口減少による次世代を見据えた視点が必要　・データに基づいた議論が必要　・多様化した議員体制の構築　・議員になるための兼職の緩和　・情報公開の徹底
・議員間討議による合意形成、これらが今後の課題として取り上げられた。

今回の研修を視聴し、あらためて思ったこと。

一つは議員間討議のあり方。当市の議員間討議の目的は「論点整理」とされている。果たしてそれだけで良いのだろうか。それが現実に即したものなのか、目的の達成に役立っているものかどうか。議会内で思う存分に腹を割って話す機会があるかどうか。まずは、そうした文化が議会に必要かどうかを検討するところから始める必要があると思った。

二つ目として、現実的な「議会改革第２ステージ」の実効性である。

議会基本条例の制定により、議会改革の形式要件はある程度整ってきたと思う。今後は議会活動がどれだけ地域や住民の生活に貢献することができるか「実質」が問われる時代。チーム議会としてどのように取り組むべきかが大きな、そして大事な課題ではないだろうか。

自分の中には、そんな余韻が漂ったフォーラムであった。

【高橋光博】

[現代政治のマトリクス－リベラル保守という可能性　中島岳志氏]

政治家の理念・ヴィジョンを読み取り、座標軸であるマトリクスに置き換え、政治家個人をマッピングさせることから、それぞれの政権政策や時代背景を読み説く。決して漠然としたイメージや話題性のみに流されることなく、賢い選択が求められていると強く感じました。私たちはこれからどんな社会を生きたいのか、どんな選択をすればよいのか、自身の人生観と直結させることが政治であり、これからの日本のあるべき姿を考えるきっかけとなりました。

[パネルディスカッション　議会活性化のための船中八策]

議員、議会の政策立案以上に、運営面である、行政監視機能を十分に活かしきれているか。それは、議選監査委員の機能から、決算審査の仕方や工夫が重要であり、「決算の中身から問題点を洗い出し、ＰＤＣＡサイクルに活かす」本来あるべき取り組みは十分であるかが問われておりました。特にも、エビデンスをもとに今後人材不足が自治体にもたらす変化をシュミレーションした「未来カルテ」から、資本ストックのマネジメントを考え、政策立案に活かす重要性を学びました。目の前の課題と共に中長期的な展望に立って人口減少、高齢化への準備を進めていくことも必要であると考えます。

［課題討議　議会活性化のための船中八策］

特にも女性議員の現状の視点、出産議員ネットワークとりまとめ事項に、出産に伴う議会の欠席に関する規定について取得期間及び運用についての考え方を明示、子の看護休暇に関する規定の整備、配偶者出産休暇の取得、ＩＰＵ「ジェンダーに配慮した議会のための行動計画」に即した、議会における仕事と家庭の両立支援のためのインフラ及び議会文化の整備又は改善が挙げられておりました。きっかけづくりではありますが、本年、議会だよりに「広報キク子」という子育て真っ最中の新人女性議員（架空のキャラクター）を設定し、一年間議員が何をしているのか、わかりやすいように掲載しました。それにより、まずは紙面上で男女問わず興味を持ってもらえるよう取り組んでおります。これからも、広報を通して女性議員が抱えている現状や課題から理想像を膨らませ、なり手不足や環境整備に向けた機運を市民と一緒に高めることも重要であると感じております。

［全体所感］

今回、土佐山アカデミーの成り立ちから研究フォーラムパネリストの事例を通して、事業に向けたファシリテーション、ファシリテーターの能力の重要性を強く感じました。それは、目的に沿った論点整理や合意形成、参加者のモチベーションの向上、アイディアの促進など、多様な意見を活かした取り組みにつなげるスキルであり、事業を進めるための知識として、また今後より一層価値観の多様化が進む社会の中で、議員として、地域の声を反映させるための一手法として、また、これからの地域イノベーションの創出や問題解決、情報共有等を行う際に活用すべきスキルとして、取得したいと考えております。

【菊池　勝】

小選挙区制だと少数者の意見に対して政治が耳を傾けなくなり、二大政党制は過半数の票を取らなければならないのでマジョリティに寄っていく、そうすると意見の相違が少なくなり、有権者が投票しても変わらないと考え始め、投票率が下がっていくという分析が興味深かった。

議員のなり手不足の解消では、「議員を目指せないじゃなくて、目指していない」という話が印象深く、まずは議員がどんな活動をしているのか、どういうところにやりがいを感じているのかなどを伝える工夫が必要だと感じた。女性議員のなり手不足解消にむけては制度面でまだまだ不足していることがあることを再認識しました。

全体的な印象としては議会のことを市民に近付ける為にどこも苦労しているんだなと思った。ただ、北上でも言われているけれども、全国大会でも分かりづらい横文字言葉などは使わずに、常に一市民でもわかる言葉を使う事を意識した方が良いと思った。

【昆野将之】

基調講演では「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」と題し、現代の日本政治がどのような状況にあるのか説明を頂いた。現代政治はあまり税金を取らないけれども、サービスが充実していない、「リスクの個人化」と呼ばれる状況にあるとのことで、そのしわ寄せが地方の数々の課題となっている側面があるのかと感じた。

その後のパネルディスカッション等では、選挙制度については、現行制度のよく知らない多数の立候補者から１名だけ、しかも一度に選ぶことの課題が示され、改選を何回かに分けて行う方法や、複数投票制の見込まれる効果に対して意見がだされたが、議会内の議論の継続性を考えると改選を分ける方法というのも面白いと感じた。

議会の基本は行政の監視機能とのことで、上越市では予算・決算について、３年度分程度の期間の分の１つ１つの事業の状態目標、数値目標、具体的な取組内容、成果、あるいは未達成といった情報について行政側から提出して頂く事で、新人議員であっても何が課題かはっきりと把握でき、それにより行政を監視する手段としてとても良いものだということであった。当市では、予算・決算の審査や施策評価などを実施しているが、まだ全体像を掴めるほどの情報は提供されていないので、適正に監視を行うためにも、適切な情報提供をお願いしたいと感じた。

また、議員間討議の必要性についても述べられ、当市でも今年度の綜合計画調査検討特別委員会の活動など、議会全体としての意見をまとめるための議論が行われたが、まだまだ十分ではないので、どのような形が望ましいのか考えていきたい。

【齊藤律雄】

議会活性化に向けた取り組みとして、講演並びにパネルディスカッションが行われ、著名人より現状等が議論されました、中には今回の議題と少しかけ離れた持論を展開した事例もあったが、概ね参加者の方々は事項について問題が有ると捉えていた。

① 2012 年より機関委任事務が国より地方に以下され、以後地方議会の役割が重要視されているが、各議会に於いて取り組みに差が有り、未だ旧態依然として活動している議会も多い、又、他議会と歩調を合わせるよう議会基本条例を作ったが、議会そのものに変化が見受けられない。

② 人口減少に伴い議会に関心が無く、議員の成り手も不足し、無投票当選による議会が増えてきている。

	③ 働き方改革と言われ、特にも女性の働き方もついて国においても謳われているが未だ女性の働き方に変化の兆しは少なく、女性の社会活動には特にも家庭の協力と伴侶の理解が難しい現状に変わりがないと公表された。 ④ 地域密着活動とされ、投票率も高と言われていた、市議会選挙も近年は低下方向で有る事が懸念される、過去には８割を超えていたが現在では半数程度の市も見受けられ、政治に興味がない事と、市民生活に於いて満足度が高いのではないかとも考えられるのでは。 ⑤ 一部の議員が、マスコミ等で話題にされひいてはそれが、議員全体の傾向等考えられている状況も有り、政治=議員=私的活動を行っているのでは、だから議員はダメ、故に政治は自分たちには関わらない等の図式で有るのでは。 その様な状況が話題になり、どの方々も大方同意見で有るのではと感じ、議会及び議員の見えるかをなお一層行っていく事が求められているので、今以上の市民との交流を通じ表していくべきではないのかなと感じた本研修会でした。 【藤本金樹】

研　修　報　告　書

北上市議会議長　様

北上市議会　新清会
代　表　　高　橋　光　博

次の　研修　について結果を報告します。

期間（期日）	令和２年２月11日（火）
視察先 視察内容 または 研修事項	10：00～12：30 地方議員のための地域経済分析システム リーサス活用【基礎編】 14：00～16：30 地方議員のための地域経済分析システム リーサス活用【応用編】 講師：榎並　利博　（株）富士通総研経済研究所
参加者	高橋 光博 齊藤 律雄 藤本 金樹 昆野 将之
[内容及び所感]	リーサスとは、内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部）及び経済産業省が提供しているシステムで、人口・産業・観光・農業等を数値・グラフ等でわかりやすく見える化し、特定の地域における問題点や特色を知るための手がかりとして、また、地域を活性化させるための政策や施策の検討・立案等のツールとして活用できる。 当市では、平成30年１月にリーサスを活用した政策立案ワークショップを開催している。その中で経済学の専門家からは、１．北上市は分工場経済型から研究開発拠点を見据えたマザー工場化が必要。２．高等教育の質を高め、地域全体で人材育成に取り組むべき。といった大きく２つの提言があったことが心に強く残っている。これは、まさに今回のリーサス活用講座の目的と一致しており、実際のデータを基に導き出された結論と思う。 今回のリーサス活用講座の中で人口マップの構造について受講しながら１つひらめいたことがあった。リーサスでは詳細なデータは市町村単位まで表示できるが、それを市独自に16地区単位に表すことも可能ではないか。年代別、男女別等に加工することによって、それぞれ実態に合った地域づくりのヒントに繋がるのではないか。そんな発想が広がる講座であった。是非、今後の地域づくり活動に活かしたいものである。 『リーサスデータは実態の把握であり、数字は嘘をつかない』ということから、議会としても是非リーサスを活用した提言に取り組んでいただくことを望む。 【高橋光博】 リーサスでは様々な分野のデータ抽出が可能で、人口増減・地域間流動、産業

特定、観光、雇用、医療・福祉、地方財政など８項目にわたり、各省庁でのデータまたサンプリングした自治体のデータを使い、具体的でわかりやすい講義であった。

今後、地方議員としての分析の視点

地域の持続可能性は？

・人口の構成、人口の推移、自然・社会増減など

自治体の経営状況の問題はないか？

・財政力指数、経常収支比率、将来負担率など

地域の課題はなにか。

・雇用環境、医療・介護など社会保障環境

課題解決のためにすべきことは？

地域の将来のためにすべきことは？

・産業政策、企業活用、観光、まちづくりなど

上記の課題についてリーサスを用いて分析し、あじさい都市構想の実現に向けて、データでの現状把握の必要があるので、全議員がリーサスとサマリー機能（要約されたデータ）をマスターすることが喫緊の課題であると感じた。

【齊藤律雄】

リーサスについては以前より関心を持ち、情報収集に使ったりしていましたが、情報が多く十分な活用で有ったのとは私自身でも思って無く、どの様な活用がベストなのか知る機会を望んでいましたので、今回の研修にて、リーサスの構造と言うか、情報がどの様に構築されているのかが理解することが出来たのではないのか、今までは情報を取り出しに、何処からどの様な情報を得るのかが理解していなく、思いつくままあちこちかき回していたのではなかったのかと知識不足を知る機会となりました。

今後は、リーサスを活用し地域の人口構成・史専攻の推移・自然と社会増減など、地域に及ぼす環境の変化に伴う自治体の経営状況等、地域の将来に向けた取り組みに寄与するためには、正確な情報を得て自らの方針に向けた政策実現の基と活用していけるのではと実感した研修でした。

【藤本金樹】

「リーサスを用いて自分の地域の課題や経営状況を分析する。」ということであったが、ほぼ使い方の講習会だった。ただ、数年前ではうまく動かなかったり、動作が重くて使い物にならなかったが、現在はかなり改善されて使いやすくなったと思う。

リーサスは近隣市町村と比較したり、似たような規模の自治体と比較するのは便利だが、例えば北上市の１６地域ごとのデータまで見ることができないので、北上市独自に出来れば、議員のみならず地域で起業する人、地域づくりなどにとても有用になると思った。

【昆野将之】